

令和3年度社会福祉法人ひらか福祉会事業報告

1. 社会福祉法人ひらか福祉会

令和3年度は新規事業として、地域の放課後等デイサービスのニーズに応えるべくキッズスポーツ Fine! を横手市婦気に開設した。また、介護スクールも開設し、年度内に修了生を出すことができた。

事業の内容としては、法人全体で108%の売上げの伸びがあったが、新規事業に伴う経費や人件費などが拡大し、全体の収支差額は約△460万円となった。

令和4年度は法人運営のガバナンス並びにコンプライアンスの強化に取り組み、職員が安心して安定的に働ける職場づくりを通して事業全体の安定化につなげたい。

2. 特別養護老人ホームあやめ苑・ショートステイあやめ苑

「職員満足」を第一に働きやすさと仕事のやりがいの充実を基本方針に、次の重点課題に取り組んできた。

『やりがいの創出、職員が主体的に動けるユニットづくり』については、主任・リーダーの権限を明確化した事により、権限内で主体的に職員主導のユニットづくりができ、それぞれの「ユニットらしさ」を運営で表現し始めてきたように感じる。有給休暇取得については、ほぼ全職員が毎月1日は取得出来ていた。内部研修の拡充として、各委員会にて1時間程度の研修計画を策定し内部研修の実施、外部研修については、コロナ禍でZoomを使用したオンライン研修も増えて来た事から研修内容など検討し可能な範囲で研修参加が出来た。

『SNSを使った情報発信と地域との交流』については、コロナが終息しない事もあり外出する事が難しい中でも各ユニットで行ったイベントや苑として開催した秋祭りなどインスタグラムに投稿し、利用者家族など特定の対象から不特定多数の人へあやめ苑の活動を情報発信した。地域貢献活動として年2回地域のクリーンアップ活動実施。活動中は地域の方々より声を掛けてもらうことも多く、今後も定期的に継続していきと考えている。

『設備老朽化への対応』としては、ナースコール及びPHSの整備検討行い各所から見積りは取り寄せるが金額も大きく秋田県の補助金申請期限まで書類が整備できず見送った。ホール水回りの整備は修繕完了しているが居室水回りやその他設備にも不具合が見られ、優先順位を立て対応している。屋外設備箇所への屋根設置についても、下見の段階で当初計画と違っており金額も大きくなることから一旦中止とした。11月にはカーポート設置している。

【稼働率目標と実績】

- ・特別養護老人ホームあやめ苑（29床） 目標）96.00%/実績）93.36%

入院の長期化や空床になった後、次の入所者が入所するまでの時間が掛かってしまった。候補者に上げた方がキャンセルになった事もあるがコロナ禍で他施設へ面談もスムーズに行えなかったこともあった。入所者の選定や入所までのスピードアップが来年度の課題として残った。

- ・ショートステイあやめ苑（14床） 目標）96.00%/実績）101.56%

利用希望日と空床日が合わなくても別の日程を提案、入院やキャンセル等で空床が出た際にも、すぐに穴埋めするよう居宅へ連絡するなど対応が出来ていた。年の2/3は稼働率が100%オーバーとなった。

特養及びショートステイの総稼働率は96%となった。

3. ショートステイかがり火

令和3年度は10月をはじめ年間の1/3が80%台となり、平均稼働率を下げた。原因としては、多くが長期利用者の体調不良や他施設への入所により空床の穴埋めが追いつかなかったこと、また新型コロナウイルスの家族感染等で利用者のキャンセルによる影響も少なくなかったことがあげられるが、こまかな利用日数の調整や新規の利用促進で年度末に向けて稼働率は回復傾向になった。

提供する介護サービスについてもメリハリを付けるため、職員体制や業務の見直しをした。年度を通じて職員の退職は少なく、人材の定着が感じられた。しかし、新型コロナウイルスの施設内感染や利用者自身の感染はなかったものの、年度後半には職員家族の周辺での感染拡大の煽りがあり自宅待機を余儀なくされるなど、勤務へのしわ寄せが発生した。職員間の協力により何とか乗り切ってきたが、今後は最悪のケースも考え危機感を持って対応策の準備をしていく必要がある。

事業所内の活動でも新型コロナウイルス感染症の影響を受けたが、職員が工夫し利用者を楽しんでいただけるお祭りの企画や隣接するかがり火キッズの施設訪問などで閉塞感を和らげることができた。同時にインスタグラムによる事業所内の活動状況を情報発信することに力を入れ、ご家族にも安心していただけたと思う。

かがり火も開設してもうすぐ10年となる。今後は建物や設備、備品の経年劣化による修繕が発生するものと予想される。現状を確認しながら計画的に改善を進めていきたい。

【稼働率目標と実績（定員30名）】

目標 年間稼働率 95.00%（1日平均 28.5人）

実績 年間稼働率 90.81% (1日平均 27.24人)

4. ケアプランセンターかがり火

今年度は3人体制で居宅介護支援事業を行っている。また、羽後町地域包括支援センターと予防業務委託契約を行い、要支援の利用者様対応することで地域包括支援センターや羽後町役場介護保険班、介護保険外の職種と連携もとれるようになり、担当対象者の幅を広げることができた。

今年度は特定事業所加算を算定することに伴い、365日営業を行い、全員で同じ対応ができるよう、情報共有を徹底した。応対も抜けがなく実施することができた。何時でも連絡や相談がしやすく、立ち寄りやすい事業所を目指すことを今後も継続し、関係機関や他居宅とも連携をとっていきたい。また、地域ケア会議や地域の研修にも積極的に参加することができ、連携・連絡体制をさらに強化することもできた。

各自の介護支援専門員・主任介護支援専門員更新研修はコロナウイルス感染症の影響もありオンライン形式での開催となったが問題なく受講することができ、秋田県への申請も無事に終えている。来年度も、更新を控えている職員がいるため、滞ることなく受講してもらい、感染症対策を講じた上で、できる限り研修へも参加できるよう取り組んでいく。

5. 企業内保育園 kagaribi kidz (かがり火キッズ)

令和3年度は過去最も利用児童の安定した一年となった。年齢層も0歳児から3歳児まででほぼ通常利用の定員人数の利用があり、職員枠を使える連携企業の児童の利用も安定した。

保育活動においては新型コロナウイルス感染症の影響があり、利用児童や職員に感染者は発生しなかったが、事業所目標であった「地域との交流」が消極的になった。その状況の中、感染対策を万全にして施設内活動に力を入れた。そのひとつとして「クッキング保育」を実施し、食を通じた様々な体験を定期的に企画運営できた。そしてインスタグラムによる事業所内の活動状況を情報発信することで、ご家族にも保育活動の理解と安心を提供できたと思う。

令和4年度の課題は安定的に児童の確保をしていくことで、今年度同様に地域の子どもの入所に向けて一時保育利用の子どものすそ野を広げていく必要がある。また、利用のメリットを十分に告知し、連携企業を増やすことで経営の安定化につなげていきたい。

6. AKITA トレーニングセンター

今年度は、デイサービスの利用者人数も増え、稼働率が昨年度年間平均

55.06%から今年度は平均 69.03%まで上昇した。稼働率 70%を超える月も多くなってきた。各職員の接客に対する意識や感染症対策を徹底して行えたことが稼働率の向上につながったと思われる。また、今年度は作業療法士 1 名、看護師 2 名、相談員 1 名が入職し、これまで以上に専門的なサービスやリハビリを提供することが出来るようになった。そのため要介護者の見学や体験の件数も増え、契約件数も増加した。要介護者の利用が増えたことで、事業対象者・要支援者と要介護者の割合が 1.2 : 1 となり、売り上げ向上に繋げることができた。

新型コロナウイルスの流行に伴う当施設の影響としては、横手市の感染拡大に伴い、1 月～3 月にかけて利用を自粛する利用者様が多い状態であった。感染対策マニュアルをもとに、施設内や送迎車の消毒・除菌の徹底、SNS や掲示物等での感染対策の情報発信を行い、利用者人数の回復を目指していく。地域への参加としては、8 月 1 日より、指定地域密着型通所介護へ移行となり、令和 4 年 1 月に第 1 回運営推進会議を実施。地域住民や民生委員、利用者家族より貴重なご意見を頂くことが出来た。今後より良いサービスを行いえるように活用していく。また、感染対策を行いながら、地域のクリーンアップや公園の草刈り等への積極的な参加をすることができた。今後も、利用者様にさらに満足していただけるように、ケア接客・感染予防対策の徹底、トレーニング内容の質の向上、SNS での情報発信を引き続き行っていきたいと思う。

目標と実績 目標) 契約人数 125 人 実績) 契約人数 122 人

7. 放課後等デイサービス キッズスポーツ

今年度の年間平均稼働率は昨年度とほぼ同じ。現在は 21 名のお子さんが利用されている。小学校 1 年生～4 年生までおり、学校別には旭小学校、北小学校、吉田小学校、支援学校、遠くは雄物川小学校、大森小学校、十文字小学校のお子さんが利用されている。

9 月にキッズスポーツファインの開設に伴い利用児童（支援学校高等部、南中学校、北小学校、南小学校）移籍されている。

稼働率は月別で見ると大きく動いているのは 1 月～2 月にかけて、特に 1 月は 65%、2 月は 75%以下と大きく下回った。原因として児童が通っている小学校が新型コロナウイルス感染症の感染が確認されたことによる休校、学級閉鎖。他事業所と併用している児童や保育園、高校に通っている兄弟が濃厚接触者となり休みとなる。複数の学区から利用している為、自粛する児童が多く利用の減少となっている。それ以外は 85%以上であり、平均すると昨年度とほぼ同じ稼働率で推移していた。

日々の療育では、毎日元気にダンス、長縄跳び、屋外遊び、遊びを取り入れた集団活動等に取り組んでいる。他、コロナウイルス感染予防対策を実施し、土曜日の外出支援では、公園、体育館、ウォータースライダー、スノーパーク、秋田県立博物館等の施設へ出掛け、地域の子供たちとも交流を深めることができた。行事では、進級おめでとう会、こどもの日、ファミリーデイ、夏祭り、敬老の日制作、運動会、クリスマス会、豆まきなどを季節に合わせた企画をしています。

今年度も少しでも地域の役に立ちたいと子供達から提案があり、施設周辺のゴミ拾いに取り組んだ。子ども自ら社会貢献活動に興味を持ってもらえたことに、大きな成長を感じた。

キッズの子供たちの成長と活動状況を積極的に SNS で情報を発信している。

そして利用者、家族が安心して利用できるように職員もチーム一丸となり、子供たちの笑顔や成長に寄り添いながら一人ひとり違った子供の特性に合わせて取り組んでいきたい。

目標 90% 実績 86.1%

8. 放課後等デイサービスキッズスポーツ Fine !

令和3年9月に事業を開始し、キッズスポーツ移籍児童7名、新規契約1名、計8名からのスタートとなった。令和4年3月時点で契約者数は11名となっている。小学校1年生から高校3年生までおり、学校別には横手支援学校中等部、同校高等部、横手南中学校、十文字小学校、旭小学校、横手北小学校、横手南小学校、栄小学校の児童が利用している。

日々の療育内容についてはダンスやボルダリング、屋外遊び、各種集団遊びを主軸に組み立てて提供しており、児童らは楽しんで取り組んでいる。また、レクリエーション内容を決めるための話し合いを設け、コミュニケーションスキルの向上を図りつつ、児童らが主体的に活動に取り組めるよう配慮している。

学校休業日には公園や体育館などに出掛けて、開放感のある場所で粗大運動やアスレチック等で汗を流している。

行事では敬老の日製作、ファイン運動会、Xmas会、正月遊び、豆まき、卒業式など各月ごとに季節を感じられる企画をしており、日々の療育と併せて SNS で情報発信を実施している。

令和4年12月より保育所等訪問支援事業を開始し契約者1名となっている。訪問という事業の性質上新型コロナウイルス感染状況の影響が出易く、未だ実施には至っていないが、感染状況に注意を払いながら訪問先との調整を続け早期実施を図りたい。

新型コロナウイルスの当事業所への影響としては、感染予防に取り組んではいるが、県南エリアでの感染拡大に伴う学校休校や学級閉鎖をはじめコロナ関

連が原因の利用キャンセルが相次ぎ、稼働率が伸びない状況が続いている。今後
も感染予防を徹底しつつ、各ご家庭に空き状況の案内を実施してキャンセル枠
の補填をしていきたい。

事業開始からおよそ半年が経過し、利用児童・保護者や学校をはじめとした各
関係機関と良好な関係性を築けている。今後も当事業所の長所を活かして利用
児童・保護者が安心して利用出来るようなサービスを提供していきたい。

目標 - % 実績 61.68%

9. あやめ介護スクール

昨年よりあやめ介護スクールの運営を開始している。

介護初任者研修については、8月26日付で開校許可（通信）を得て、法
人職員2名が研修を終了しており、修了証明書の発行と県への登録を済ま
せている。介護実務者研修については設置計画書を提出しているが、実際
に開校するまでには計画書提出後より最低でも9カ月はかかる為、開校実
施までには至っていない。

今年度1回目の初任者研修を終了した事により、物品や研修場所の問題
があり、今後も同様に発生する事が見込まれるが、その都度法人と相談を
しながら解決していきたい。

また、今回の開校に伴い近隣施設を訪問した際には研修のニーズの多さ
を感じた為、来年度は実務者研修を含め開校回数を増やし、今後は地域の介
護学校となれるように努力をしていきたい。